

reactive concept clinic を探せ!

CCCとは…患者ニーズに合致した独創性を有する診療所のことを指す

今月の診療所 ▼

心臓画像 クリニック

東京都新宿区新小川町1-14
飯田橋リーブルックス・ビズ1F
循環器内科、放射線科
<http://www.cviclinic.com/>

コンセプトポイント

豊富な実績に基づく
質の高い心臓画像検査を実施

Concept point 1.

診療報酬の低さをカバーするため、
各自が常に業務効率化を意識

Concept point 2.

診療技術を維持・向上させ、
同様の施設展開も視野に

Concept point 3.

独自性を打ち出すならば、何を取り、何を捨てるか、その経営判断が重要になる。画像診断を診療の中心に据えた診療所のなかでも、今回は心臓画像検査に特化した診療所の取り組みを紹介する。

質を担保したスピーディーな検査で 患者に満足度と利便性を提供

2 2009年に心臓画像クリニック飯田橋をオープンした寺島正浩院長は、「私のこれまでの研究結果の還元」と、自らの開業の理由を表現する。

心が安らぐよう内装にも配慮

寺島院長は米スタンフォード大学への二度の留学経験をもち、計7年半にわたり現地で臨床と研究に携わった。なかでも、MRI等による撮影画像から動脈硬化をはじめとした心臓疾患などを診断するプロジェクトに深く関わり、その経験を日本に還元したいとの思いから開業した。

同院のコンセプトは、MRIやCTを装備し、心臓の高度画像診断に特化していること。加えて、診断結果を最短即日で出し、視覚的にわかりやすい3D画像形式で解析・解説することも大きな特徴だ。このコンセプトのもと、内装

面にも配慮している。MRIやCT検査に際しての圧迫感や不安感を和らげるため、同院の内装は一部の壁を人間が最も安らぐと言われる夕暮れ時をイメージした色調に仕上げたり、間接照明を院内各所に配したり、バラの柄のクロスをさりげなく検査室の天井に使用したりと、さまざまな工夫を施している。「心安らぐ心良所(診療所)を目指しました」と、寺島院長は説明する。

全職員が効率化を意識する

同院の患者の90%以上は、ほかの医療機関からの紹介だ。これは画像診断に特化している診療所に共通したもので、他院との連携体制の構築がより重要となる。「開業当初、このつながりをつくるのに苦労しました」と、寺島院長は振り返る。自院の知名度を高めるためのアプローチは一般的な診療所

The Practice

— 実践から学ぶ経営手法 —



↑豊富な情報が盛り込まれた同院のホームページ。人間ドックなど自由診療患者の大半が、ホームページ経由で来院する
→自らの経験を日本に還元するため、開業したという寺島正浩院長



↑MRIとCTの両方を備え、高度な画像診断を提供する。患者の圧迫感・不安感を和らげるため、検査室は壁紙の色遣いや照明などに工夫を凝らしている



検査結果は迅速に出し、3D画像形式でわかりやすく解説する

待合もシックなデザインと照明で、落ち着いた雰囲気演出



と大きく異なり、寺島院長は郡市区医師会や大学病院、地域の基幹病院などで精力的に講演や情報交換を行い、紹介患者を徐々に獲得していった。

アピールする強みは、検査の豊富な実績とスピーディさにある。開業当時はこれまでの寺島院長の実績をアピールポイントとし、現在は月に心臓のMRI230件、CT290件で延べスキャン数8500人とほかの施設と比較しても群を抜く数を誇り、この実績に基づく質の高い検査が可能であることを訴求している。

患者の利便性を高めているスピーディさも、豊富な検査実績があるからこそ日々ブラッシュアップしていきけるもの。「当院では医師をはじめ、技師、看護師、受付スタッフに至るまで、各人が常に質を担保したうえでいかにワークフローをスリムにできるかを考え、実行しています」と、寺島院長は胸を張る。開業当初から質とスピードの両立を説いてきたことにより、どのスタッフからも随時業務の改善案が提案される組織文化が醸成されている。「心臓画像検査は労力に見合う診療報酬ではな

い」と考える寺島院長だからこそ、業務の効率化に対する高い意識をもち、それを院内全体で共有できているのだろう。

現在、総収入に占める人間ドックなどの自由診療の割合は、患者数ベースで10〜20%の間を行き来しているという。この比率が高まれば収益性はさらによくなるが、「病名がつく、難しい保険診療の症例も積極的に診ていく方針です」と語るように、寺島院長は必要以上自由診療部門を強化する気はない。それは今後の構想とも密接に関係している。

寺島院長は、同様のコンセプトの医療機関を各地に展開する計画を検討しているのだ。「診療所では保有が容易ではないMRI・CTを備え、規模の大きな施設では難しい予約のとりやすさと素早い検査結果のフィードバックの実現。機能性と利便性を兼ね備えた施設を業務提携の形で必要な地域に開設することを考えています」
その際に技術や人材の提供も視野に入れていくからこそ、臨床技術を常に高めるため、難しい症例も積極的に応じるスタンスなのだ。同院の今後の動向にも注目したい。